

令和4年度第2回会議議事要旨
(令和4年10月 書面開催)

令和5年1月

南 城 市

1. 協議事項(南城市再編実施計画の改定について)

番号	委員	事務局
1-1	<p>変更が必要になった経緯の説明が必要。 利便性に影響する変更内容については、運行事業者から早い段階で状況の報告をしてもらい、利便性を維持するための対応策を検討し、やむを得ない場合について減便するという事を市と事業者間で認識を共有する必要がある。また、変更内容について住民理解を得る取り組みが必要である。 (利便性が増す部分のPRはもちろん、地域住民に当事者の一人となっただけのためにも減便理由などのバスを取り巻く事情の理解造成も重要) (村上委員)</p>	<p>今後は、変更が必要になった経緯についても記載を追加する。(39、339、40、309系統は運転手不足に伴う減便、191、391便は、ニーズが高いサンエーパルシティへの延伸にともなう新設及び既存系統の減便) また、ご指摘を踏まえ、減便を行う際には、利用状況を踏まえ、必要に応じて利便性維持のための代替案の検討もあわせて行うこととするとともに、路線バスの維持に関する現状について、公共交通だより等を活用して、住民への周知を図っていく。</p>
1-2	<p>「幹線バスの収支見込み」について、南城市も通る補助系統 50、51、54、82 番のうち 54 番、82 番が記載されていない。系統 54 番(前川線)及び系統 82 番(玉泉洞糸満線)については、Nバスとの重複区間があり、両系統ともNバスに影響すると思われるが、どのように取り扱うのか(山里委員)</p>	<p>当初計画は、変更予定がある路線を対象に幹線バスの収支の計算等を行っていた。このため、変更予定がなかった 54 番、82 番については計算の対象としていなかったが、両路線については、今後も維持していくと認識している。54 番系統は、玉城地区、大里地区と那覇方面を結ぶ路線であり、ご指摘のように湧稲国～玉泉洞前でNバスのC系統と重複している。54 番系統の運行ダイヤは、午前 2 便が上りの那覇向けに、午後 2 便が下りの玉泉洞向けに運行されており、主に那覇方面への通勤通学に利用されていると思われる。一方、Nバスは玉城・大里地区を周回する路線となっており、目的地により使い分けされていると認識している。</p>
1-3	<p>書面のみで理解するのが難しい。口頭での説明が必要と思う。(比嘉委員)</p>	<p>今回は、緊急性が高かったため、やむを得ず書面開催としたが、今後、同様の内容の協議事項があれば、対面開催での開催を基本に考えたい。</p>